水道の未来像

VISION OF THE WATER

対談

朝起きて、じゃ口をひねれば流れる水
その当たり前を続けていくための計画
「川西市新水道ビジョン」ができました
今回の対談のテーマです

事業管理者

上下水道事業管理者

米田 勝也 YONEDA KATSUYA

管理者就任２年目を迎える
給水人口の減少と多様化の時代
長期的な視点で、新水道ビジョンの推進めざす

管理者　今日は、伊藤さんとのお話を通じて、市民の皆さんに、令和元年からの10年計画である「川西市新水道ビジョン」の一部を知っていただけたらと思っています。

伊藤さん　よろしくお願いします。私は水道モニターを経験したことで、以前にもまして、川西市の水道に興味を持つようになりました。ところで、どうしてこの計画を作ることになったんですか。

管理者　平成21年度に作った旧水道ビジョンの計画期間が終わったのと、時代が大きく変わってきているので、将来にわたって事業を持続させていくための指針を決める必要があったからです。

伊藤さん　時代の変化ってどんなことなんですか。

減る水の使用量 設備更新待ったなし

管理者　人口減少時代って、お聞きになったことがあるでしょう。人口が減ってくると、当然、水を使う人が減り、水道料金の収入も減ってきます。水道事業は独立採算制なので、基本的にはこの収入で運営していかなければなりません。一方で水道管や配水池などの施設は老朽化して、更新費用がいっきにかかる時期になっています。耐震化も進めないといけないですしね。水道の技術に精通した職員が減っているのも課題です。

伊藤さん　使う人が減ってきているし、昔と比べて節水トイレとか、いろいろな器具で水をあ

進む人口減少社会

収入の減少

人口減少に伴い、給水人口は減少
節水意識の向上と節水器具の普及が浸透
収入になる水の使用量は減少傾向が続きます